千葉大学学術成果リポジトリ

CURATOR

Chiba University's Repository for Access To Outcomes from Research

http://mitizane.LL.chiba-u.jp/curator/

千葉大学附属図書館　2005.9

〒263-8522　千葉市稲毛区弥生町1-33　　http://www.LL.chiba-u.ac.jp

CURATOR Logo: Designed by Kiyoshi Miyazaki Labo. Fac. Eng. Chiba Univ. 2005 All Rights Reserved

CURATOR

CHIBA UNIVERSITY REPOSITORY
for Access to Outcomes from Research

ご挨拶

千葉大学附属図書館は、千葉大学の機関リポジトリとしての CURATOR を構築しつつあります。この構築は、厳密には最初も最後もない地道な仕事ですが、ともかくこの計画が端緒についたことを記念し、あわせて、これからの方向性を議論するとともに、同様の構想をもつ他大学、他機関の方々からのフィードバックをいただく機会として、このシンポジウムを開催することといたしましたが以下では、その基本的な考え方について思うことを述べたいと存じます。

「機関リポジトリ」は、機関（大学）の研究成果・教育資源を電子的に保存し、さまざまな人々の用に供することを目的としています。研究成果のなかには、学外の学術雑誌に投稿し採択された論文、学内の紀要に発表された論文、それらの基礎となるデータやそのデータベース、それ以外のさまざまな学術資料（研究報告書、資料集、校訂、博物資料など）が含まれます。教育資源としては、シラバス、授業資料（スライド、配布物、マルチメディア教材など）、e-Learning 用各種コンテンツが含まれます。つまり、千葉大学が学術的な活動を行なって生み出したすべての資料で電子的なもの、電子化されたものがすべて含まれるということになります。千葉大学のショウウィンドウであり、ショウケースであるといってよいでしょう。学術論文のなかでも他大学では購読していない雑誌に発表されたものは、CURATOR から利用することができますし、授業資料は高校生がより詳細に千葉大学への進学を検討する際に役立つことでしょう。

この意味で、CURATOR という営為は、附属図書館の営為である以上に、大学そのもの、大学全体の営為であり、すべての教員・学生が参加できるし、しなければなりません。実際、千葉大学においては、平成 16 年度の教育研究評議会で CURATOR を大学のプロジェクトとすることを議決して、推進が附属図書館にまかされ、各学部、研究科、研究院の支援も受けて、日本でも最初の組織された機関リポジトリが誕生しつつあるところです。

一方で、機関リポジトリを構築、維持するという仕事に大学図書館が取り組むということは、電子化された学術的コミュニケーションの時代における大学図書館の役割、機能の変革を象徴するものです。従来型の図書館は、大学の外に現われた資料を、学内の教育・研究からの需要に応じて選択、収集し、利用に供するとともに保存・蓄積を図ることが主要な役割でした。しかし、電子化の時代では、電子ジャーナルに象徴されるように、大学の外に現われる資料はインターネットと学内 LAN を経由して、直接利用者の手許で利用可能となります。

図書館が選択、収集、提供、保存、蓄積する必要はなくなりました。図書館のベクトルは方向を逆転することになりつつあります。つまり、図書館が選択、収集、提供、保存、蓄積する資料は、大学の外に現われるものではなく、大学の中における教育研究活動が生み出した知的資産にほかなりません。この貴重な蓄積が将来の学術の糧となる環境を構築することが図書館の新しい、電子化の時代にふさわしい役割だと言うことができます。

ここにいたるまでご苦労された皆さまに対して、あえて多くの方々の名前を挙げることはいたしませんが、この場を借りてお礼申しあげたいと存じます。あわせて、学内関係者のみなさまには、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。また、日本においては、このような企図はまだ広く実現されているとは言えませんが、大学間の協力活動があってはじめて、真に役に立つものとなるので、関係諸機関、各大学からのご支援もいただいていかなければなりません。この意味で広く今後のご支援をお願いしたいと思います。

2005年 9 月20日
千葉大学附属図書館長
土屋　俊

CURATOR

CHIBA UNIVERSITY REPOSITORY
for Access to Outcomes from Research

学術成果の収集と登録

CURATORでは、千葉大学で生産された学術成果（学術論文、大学紀要、科研費等研究成果報告書、学会発表資料、テクニカルペーパー、博士論文など）の収集・登録を以下のように進めています。

学術成果登録プロセス

著作物を登録するにあたって

自分だけが著作権を保有する論文を CURATOR に登録する場合は、自分の一存で登録することが可能ですが、多くの場合は著作権者（出版社・学会など）の許諾が必要です。英国の調査によれば、欧米の学術誌は、実に 90%以上が論文の機関リポジトリへの登録を承諾手続き無しで認めています。ただし出版社がレイアウト・編集した＜出版社版＞の登録は認めていません。著者の手元にある＜著者版＞が必要になります。また、共著者との調整も必要ですのでご注意ください。

Point

- 多くの出版社がリポジトリ登録を認めている、ただし＜著者版＞
- 問題なく登録するためにも、＜著者版＞を残しておくこと
- 共著者とリポジトリ登録に関して事前に調整しておくこと

CHIBA UNIVERSITY REPOSITORY
for Access to Outcomes from Research
CURATOR

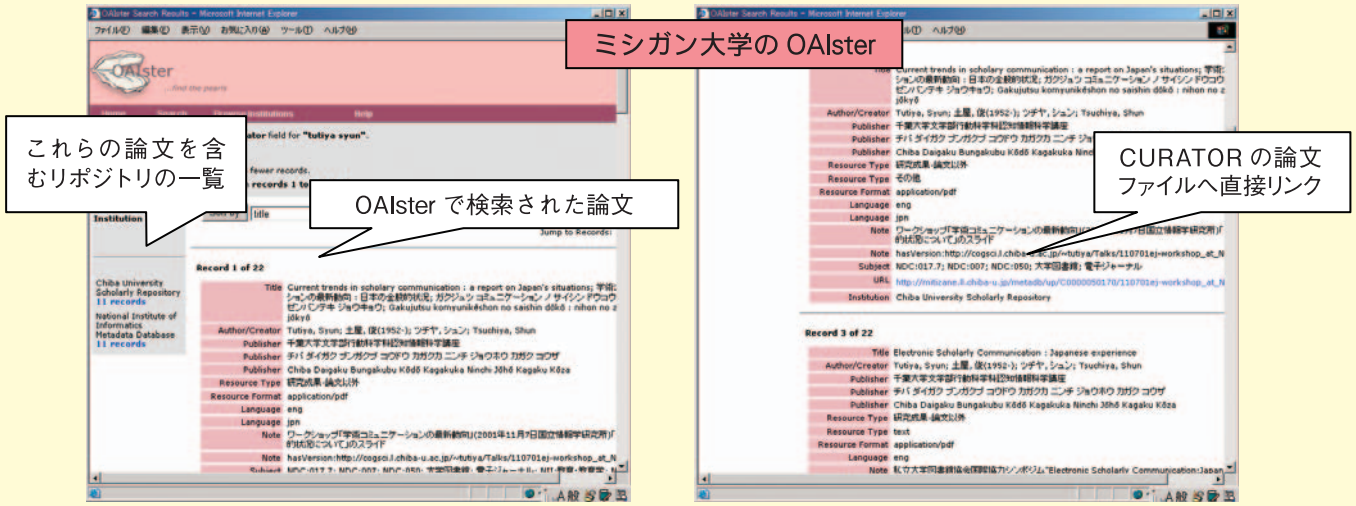
世界の機関リポジトリ

世界には 400 を超える大学の機関リポジトリがあり、その他にも主題分野別のリポジトリが数多く運営されています。代表的な機関リポジトリには、英サザンプトン大学の e-Prints Soton（http://eprints.soton.ac.uk/）や、マサチューセッツ工科大学の DSpace@MIT（https://dspace.mit.edu/）、カリフォルニア大学の eScholarship（http://repositories.cdlib.org/esholarship/）があります。

各国を代表する機関リポジトリ

これらの機関リポジトリの大半は、OAI-PMH（Open Archives Initiative Protocol for Metadata Harvesting）というメタデータ一括収集の標準プロトコルに準拠しています。

収集したメタデータを一挙に検索させる Web サイトをサービスプロバイダと言い、代表的プロバイダにミシガン大学の OAIster（http://oaister.umdl.umich.edu/o/oaister/）があります。世界各国から 500 万以上の論文のメタデータを収集しており、わが CURATOR に収録された論文も検索対象となっています。



CURATOR

CHIBA UNIVERSITY REPOSITORY
for Access to Outcomes from Research

CURATORについて

■ **千葉大学学術成果リポジトリ**（CURATOR: Chiba University's Repository for Access To Outcome from Research）は、千葉大学において生み出された学術研究成果（学術論文、プレプリント、テクニカルレポート、学位論文、会議発表資料等）を電子的に保存し学内外に公開するインターネット上の発信拠点です。

■ このような学術研究成果の発信拠点は**機関リポジトリ（Institutional Repository）**と称され、世界で400機関以上の大学等に普及しています。CURATORはこの機関リポジトリの一つです。

■ **千葉大学附属図書館**は、科学技術・学術審議会による大学等からの学術情報発信機能の整備についての提言（『学術情報の流通基盤の充実について（審議のまとめ）』平成14年３月）を受け、いち早く機関リポジトリの開発に着手し、国内で初めて学内正式運用を開始しました。

構築の経緯

平成14年度　学術情報発信強化に向けてリポジトリシステムの構築を計画
プロトタイプ・システムの開発に着手（14年８月）
館内ワーキンググループを設置
学内教員を対象とした学術情報の発信に関するアンケート調査実施（14年10月10日～22日）
プロトタイプ版の完成（15年３月）

平成15年度　試行運用を開始（協力者グループ対象）（15年４月）
学術情報発信体制の確立を全学的に検討する「学術情報発信に関する懇談会」を開催（15年７月）
附属図書館長の下に「学術情報発信のための協力者会議」設置（15年10月）
プロトタイプシステムの評価と検証を実施し、インタフェースの改善等実施

平成16年度　機関リポジトリの国内普及を目指すNII-IRP（国立情報学研究所学術機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクト）に他の国内５大学とともに参画（16年６月～17年３月）
附属図書館運営委員会の下に「学術情報発信専門委員会」設置（16年４月）
館内学術情報発信支援ワーキンググループを設置（16年４月）
学内紀要の中から約500本の論文の登録を実施（初期データ整備）
「千葉大学学術成果リポジトリ運用指針」を制定（17年２月図書館運営委員会）
同指針を教育研究評議会が承認（17年２月18日）→「千葉大学学術成果リポジトリ」運用開始
「学術情報発信専門委員会　システム間連携ワーキンググループ」開催（17年２月）
国内学会を対象にした刊行誌掲載論文の著作権調査実施（17年１月～２月）
学内説明会開催、登録申請受付開始（17年３月～）

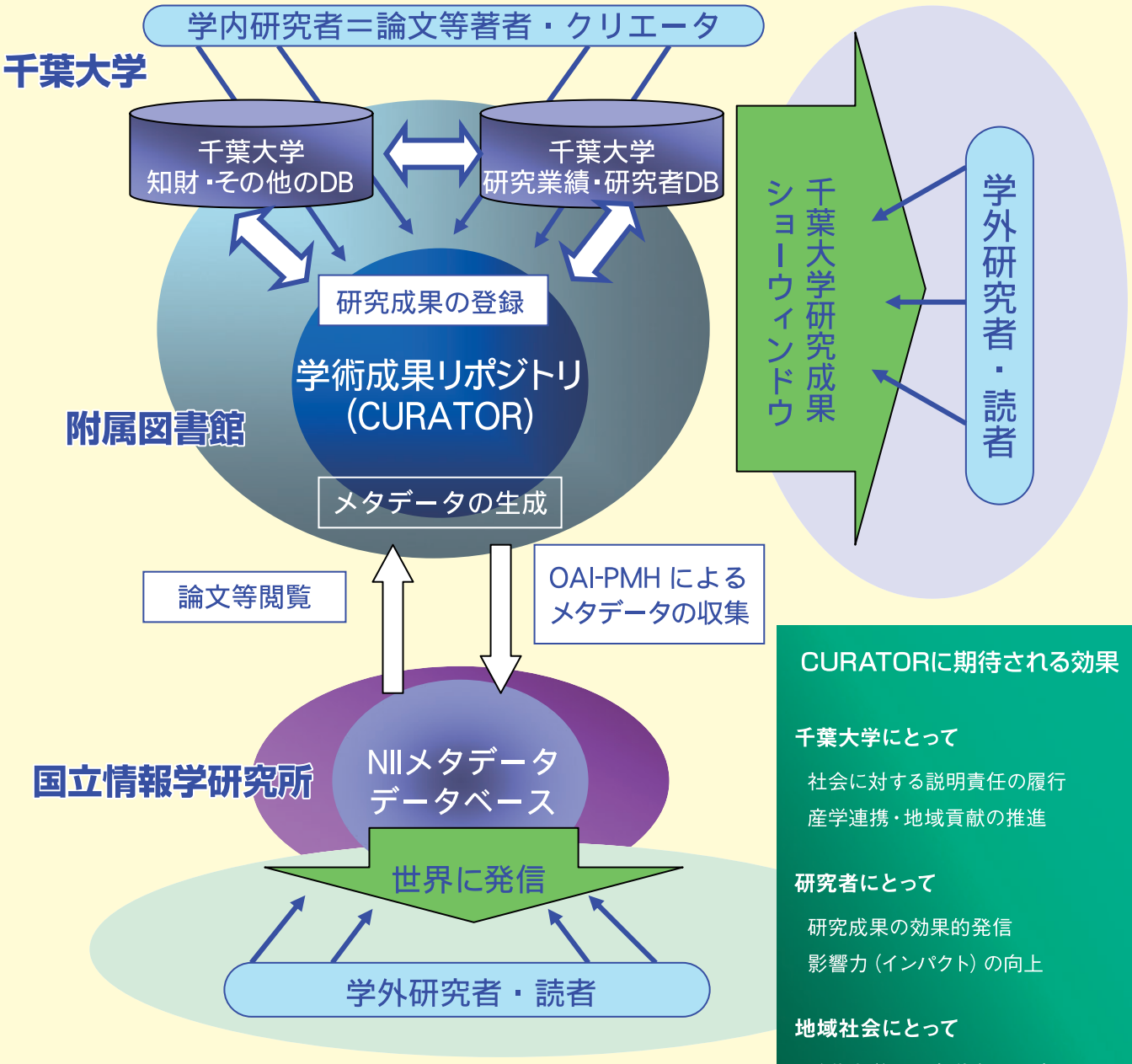
平成17年度　シンポジウム開催（17年９月20日）

CURATOR

CHIBA UNIVERSITY REPOSITORY
for Access to Outcomes from Research

研究成果ショーウィンドウ

CURATOR は、単に学術成果を電子的に保存・発信するだけではありません。国立情報学研究所のメタデータデータベースを通じ、広く国内外に学術成果を発信するとともに、研究者情報等と有機的に連携し千葉大学の研究成果を積極的・魅力的に発信する「ショーウィンドウ」の核としての役割を果たします。これにより、千葉大学の学術研究に対する学外からのニーズにより的確に応じることができるようになり、産学連携や共同研究を一層促進するものとして期待されています。



CURATORに期待される効果

千葉大学にとって

社会に対する説明責任の履行

産学連携・地域貢献の推進

研究者にとって

研究成果の効果的発信

影響力（インパクト）の向上

地域社会にとって

千葉大学の研究動向の迅速な把握による医療、産業、教育等各方面の活性化

バリアフリーなアクセス環境